

めだかの学校たより

平成 24 年 5 月 1 日
第 76 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第七十六回 校長 鈴木 偉代

3月「メダカの学校」に、暫くぶり
に出席しました。のんびりと構えてい
たところ、「次回、校長先生は鈴木偉
代さん」という事務局の榊原さんの発
言にびっくり。まさかの思いでした。
断るわけにはいかず、こうして今、校
長訓話という慣れない事に四苦八苦
しております。

5年前、定年退職を機にそのまま、
芝川町（現富士宮市）にあるホール
アース自然学校というところに就職
いたしました。ホールアース自然学校
という、「何の学校？学生さん？」
等といわれ、地元の皆様にも理解され
ていないところがありました。つなぎ
を着て若者たちが農作業をしている
と、宗教団体と間違えられそうだと

我ながら思ったものです。近くには、
知る人ぞ知る「管理者養成学校」とい
うのもあります。

仕事内容は大雑把に言えば、自然と
人を結ぶこと。富士山を中心に青木が
原樹海をご案内したり、溶岩洞窟に
入ったり、カヌーをしたり、熱気球を
上げたり、トレッキングや富士登山、
農業体験、キャンプ、地域おこし、イ
ンタープリター養成、災害支援、富士
宮市と組んだからだの学校、労金森の
学校の全国事務局、外国の環境教育に
携わる方々の研修等々、一言では説明
のできない仕事内容でした。お客様は、
日本全国からいらつしやいますが、関
東圏からの方々が主でした。

川遊びや虫取り、タケノコ採り、野
草積み、田植え、動物のお世話等、私
たちが普段の生活の中で体験してき
たことを、プログラムとして行ってい
ました。都会の方々にとって、ピルの

中で生活していると、どれ一つとつて
も体験することのできないことばか
り。高度成長期を境に、団塊世代と若
い人々の間には、体験（自然と触れ合
うことなど）の格差が出ているように
思います。そして、帰る田舎のない人
たちにとって、ホールアース自然学校
は、人と人とを繋げる癒しの場所でし
た。

浜松に帰ってきて、遠州のから風、
ケーンケーンと鳴くキジの声、満州道
路の桜並木、梨・リンゴ畑の満開の花、
青々と茂るジャガイモの葉など、芝川
に劣らない自然環境が残されている
ことに感動しています。

今後も「メダカの皆様」との出会い
を大切に、浜松での生活を楽しまたい
と思います。

さて6月はどんなお話をしましよ
うか。



めだかの学校伝言板

——第76回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／鈴木偉代

教頭／大久保陽

用務員／山田修平

給食係／野嶋一男・山崎敏明・鈴木祐之・大谷香代子
加藤ひとみ・村田徳治・藤田潤吉・藤田久枝
鈴木偉代・渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎>静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成24年6月1日(金)6:20PMより

受付／富田健・塚水雄一郎・松下幸江・大場敬子
斉藤昭(後見人)

<時間割>今回のテーマ<新東名 出会いと絆と旅のせて>

- 1時間目 理科 寺田幸宏先生
「蜜蜂の絆の社会」
- 2時間目 家庭科 山田ひろ子先生
「相づきの縁側カフェ」
- 3時間目 社会科 山下安範先生
「見知らぬ人との出会いの旅」
- 給食の時間

～6月は新じゃがの美味しい季節、ご賞味を！～
10:15 閉校

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■いやゝ寒かった
新春のめだかフォーラム

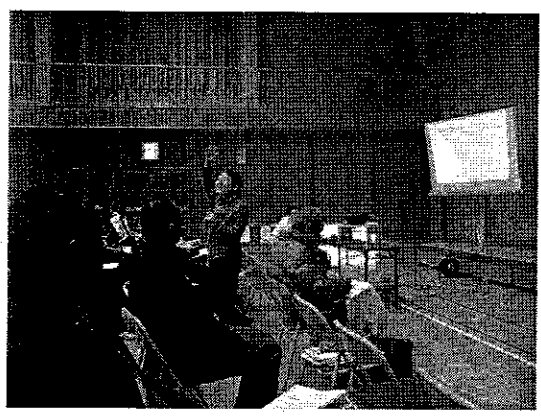
警田市敷地の警田市東公民館で2月19日(日)開催された「めだか新春フォーラム2012」みんなで語ろうまじくり・仲間づくり・絆づくり。130余人が冷房完備の体育館会場に参集。いやゝ寒いこと寒いこと。10時、開会セレモニーのチンドン演奏の時はまだ良かったが、基調講演の「ズク出せ チェ出せ チカラ出せ」のまじくりにかけた、小布施町の関悦子さんの熱弁も、ジーンと胸を打ったが、関さん自身がブルブル震える有り様。講演後の温かいコーヒーは大繁盛。12時半ごろには終わってしまった。12時〜14時までの「屋敷&交流会」の、手打ちそばと「えび羊カレー」も大好評。ロビーではピアノ生演奏。「パネルディスカッションは暖房の効いた交流会場でやろうよ」と、屋敷交流会は13時半で終了し、急遽参加者全員で講演会場と交流会場を片付けて会場変更。パネルディスカッションも熱が入る。なんせコーディネーターは溝口久大魔人。パネラーは遠州横須賀倶楽部大番頭の鈴木武史メダカ。食と農をつなげる富士市の豊田由美メダカ。手打ちそばを武器に趣味の農林業を通じて地域おこしに励む警田市の鈴木正士メダカ。ガーデニングコーディネーターで「花とまじくり」に力を尽くす所沢市の木村智子メダカ。蓄積された実践活動の報告の四人だけに、その内容は示唆にとんでいる。会場から「うーん、いい!」の声も飛ぶ。東京、長野、岐阜、三重、名古屋など遠くから参加した方に、質問と感

想と自己紹介をしていただいた。閉会式は体育館に集まって、閉会の辞のあと、いつもの如く大きな輪をつくって「今日の日はさようなら」を歌いつつ握手して散会した。貴重な1日であった。

前日の18日、午後6時から警田市一貫地「豊岡荘」で行われた『前夜交流会』には32名が出席。お酒なしの料理をいただいての交流会。な、なんと自己紹介だけで二時間半。それぞれが思いのたけを披露するんだから。おしゃべり好きなバラメダカが一番短かった。「お酒なしでこんなに座が盛り上がるのはめだかの学校しかないね」とは東京から参加の首原敬一メダカ(笑い)。基調講演の関悦子さん、長野県の関京子メダカ、警田市の今村純子メダカ、岐阜県の早川裕康メダカ、三重県の杉谷知也メダカら6人が宿泊。

なお、めだか新春フォーラムは、インターネットでYouTubeを通じて終日全国に放映された。

事務局バラメダカ。



■新東名開通効果で沢山の人が!

第14回遠州森町発の「町並みと蔵展」今回は町並みと蔵展を新東名の開通に併せ開催したため、マスコミ関係の取材などもあり沢山のお客様で賑わい、あちこちでメダカ群団が見られました。

今回はテーマを「新村理助と遠州報徳七人衆」と題して日本の報徳運動のメッカとなった遠州地域取り組みについて迫ってみました。「遠州地方のやらまいか精神」その根底にはやはり報徳があり、帝國農家一致協会の設立や日本初となる掛川信用組合や見付報徳社連合信用組合の設立に繋がりに、豊田佐吉や鈴木藤三郎など遠州人が先頭になって日本の産業革命を進める原動力となりました。

■新東名開通の効果は!

4月14日午後3時の開通と同時に森掛川インターチェンジやパーキングは、我先にすぐに満杯で順番待ちの行列が続きました。日本の大動脈が遠州を貫通する。現実には沢山の車が出てくるのを見ると全く異次元の世界が出現したように思えます。森町を一望出来る場所設置されたPAには宿場町風レストランや休憩施設が出来ます。正面には治郎柿の原木2世が植えられています。また、非常時の災害対応拠点としてのヘリポートも完備し、まさに日本の大動脈としての威厳を感じさせています。この新東名を地域としてどう活かすのかこれからが楽しみです。

■尾上さんちのオープンガーデン

『しななばたさくらコンサート』
4月8日の日曜日、浜松市春野町の尾上美智子メダカの長蔵寺の里で、桜や野の花に囲まれて『しななばたさくらコンサート』。フィドル&ギターのアイリッシュ

音楽とジュニアオーケストラで活躍する高2、中3姉妹のチェロとピオラのクラシック音楽の演奏会。八重桜の塩おにぎり、手打ちそば、旬の山菜でんぶらなどの味覚の、まさに里山での最高のおもてなし。大勢のめだか生もお手伝いや何やらと参加して、「よかった、よかった」の大喝でした。

■春野のこれだけでは終わらない?

春野町すべてがギヤラリーの『春野人(はるのびと)めぐり』が、6月1日(金)3日(日)まで、春野町を舞台に、春野生まれの人と移住してきた人が、家や工房庭などを開放しておもてなし。笑顔畑の山ちゃんファームから丸太のお宿シンフォニーまでの24カ所。森はともだちの内田貴久メダカやオープンガーデンの尾上美智子メダカももちろん参加。お問い合わせは、053・989・1084 池谷さんまで。

こちらもと、秋葉街道ツーリズムの中川泰元メダカ。6月1日(金)に『春野庭園と春荳杉巡りの旅』を企画。JR浜松駅に8時に集合していっぶく処横川→大光寺(春荳杉鑑賞)→新宮池→尾上庭で「すみれそば」と新茶の食体験→将軍杉→天竜二俣駅→JR浜松駅17時半ごろ帰着。ツアー費用は一人6,000円。のんびりゆったりとバスツアーをお楽しみを!。問い合わせは053・925・2950 秋葉街道ツーリズムへ。

■急遽、映画エキストラ大募集!

ミナノ森プロジェクト、映画『果てぬ村のミナ』いよいよ撮影開始です。瀬木監督のもと、土屋太鳳・木下かれん・斉木しげる・淡路恵子・入江杏子他キャストも決ま

り、久々に映画のあわただしさです。で、めだかの仲間、出番です。

5月20日(雨天決行)8~18時の間、何時でもOK!ご家族、友人知人どなたでも撮影制限なし。

当日は、「みさくば祭り」再現、主人公のたちのバンドライブの場面が、主な予定。またとないチャンス、奮って応募下さい。お問い合わせ事務局
TEL053・451・3035

■開校日を前に学舎をキレイに!

5月27日(日)午前9時から学舎の清掃をします。今回は草木も生長しています。草刈りが多いと思います。調理室、トイレ、観音塾の清掃もあります。清々しく開校するために手を貸してください。午後は「いなさ湖」の花壇の手入れもしたいと思います。お弁当持参でお出掛けください。

『人・ひと・ヒト』だより

●浜松市細江町の松田不秋メダカ。車乗るのをやめて、家にいます。だって。三遠南信にお出かけの際にはぜひお声かけて! ●同郷の上嶋裕志メダカ。「姫街道」にはめっぽう強くなった。念願のフォーラムを成功させて。磐田市の小林佳弘メダカや岐阜県の長谷川政夫メダカの力も借りて。細江町と引佐町、三ヶ日町の一部の観光協会が合併して奥浜名湖観光協会設立。その運営委員も。 ●観光協会といえば、磐田市の榊原幸雄メダカ、磐田市観光協会の事務局長に。磐田駅のすぐ前の観光案内所に。「これからの観光は感好どよ」とお師匠の静岡市清水区の花井孝メダカ、まさに。3月のギネス

ブック挑戦の大鉄火巻きも成功させて。

●磐田市の鈴木祐之メダカ。「バラさん差し入れ」と栄養ドリンク。歩いて2分のところの「アース薬局」の専務。オヤジサン曰く「早く相手を見つけて欲しいヨ」だって。誰かいませんか?

●磐田市の今村純子メダカ。秋田県の「わらび座」の劇団員をつれて。「バラさん、知ってる?」。15年ほど前か、引佐町で「わらび座」が公演しようかと会ったことが。4月30日浜松市で公演。今村メダカと渡辺三ツ子メダカがお孫さんと、バラメダカ夫婦が観劇。

●「わらび座」と言えば、秋田県鹿角市の奈良務メダカに「まほろば塾」の講師を頼まれた時に拠点のけい古場近くまで行っただけ。「まほろば塾」の第1回目の講師がバラメダカで、10回目の締め講師が東京の菅原敏一メダカだった。奈良メダカアマチュア劇団で演劇も。

●磐田市見付で4月29日に行われた第12回遠州大名行列・舞車いわた大祭りには、侍姿で小野泰弘メダカと川島安一メダカと田村進一メダカ。「下に下に」おむすび一つで疲れたなあ、だって。武士は食うわねど。でもねえ。

●浜松市の藤田吉恭メダカ。5月3日から5日まで行われた「浜松まつり」の鹿谷町の番長だって。「まつり」は最高!でも疲れたねえ。

●岐阜県中津川市の早川裕康メダカ。「めだか新春フォーラム」に19日に来る予定が一日間違えてきてしまった、だって。あの「とんからしらすみそ」と「激辛とんがらし」を持って。みそは「はんに、とんがらしは手打ちそばに。涙を流しておいしいとは。」

●こちらは名古屋市のイケメンの川合光久メダカ。フォーラムに。5年ぶりくらい

だったかなア久しぶり。嬉しかったなあ。

●長野県天龍村の関京子メダカ。なかなか「めだかの学校」には出席できなかったが、東京から菅原敏一メダカの車に同乗して「フォーラム」に。活躍や高齡めだかの模範生ですヨ。

●磐田市の小林佳弘メダカ。「磐田市に住みたくなる本」第2集を6月に販売予定。歴史や文化など網羅。まさに歩いて歩いて調べて調べて。次は「袋井に住みたくなる本」を執筆する。おれ80歳だよ、だって。

●浜松市天竜区の「まろ元氣里山」の本島慎一郎・真弓メダカ。4月22日の「二俣まつり」で、商工会女性部のみなさんと、まちのにぎわい創出を。主催の「出合いの小径」は多くのめだか生も応援に。

●祭りと言え、おもてなしのお茶の接待嬉しいね。島田市の池谷俊裕メダカ、塚本佳男メダカ、喜瀬川はつ枝メダカ、浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ、磐田市の鈴木正士メダカのお茶生産農家は猫の手も借りたい大忙しだね。一度飲み比べてみたいねエッ、6月のめだかの学校でやるの?。ウソです。でもやりたいね。

※新人生紹介 ●磐田市の山下安範メダカ。写真撮影、スポーツ全般、旅行は国内47都府県、海外は30カ国以上添乗経験、スリランカに青年海外協力隊参加、ホノルルマラソン完走。いや、マイッタね。現在磐田市立田原小学校で事務、用務員をやっているだって。

×× ×× もっともっと伝えたいが今回はこれまでに。

《めだか春秋》 「あいさつ」ってむずかしい!? 少し口を横にひろげて「い・き・し・ち・」。

に」。リズムかるに「い・き・し・ち・」に「いきしちに」。口を大きく広げて「ドレミファソ」おはようございます「こんにちわ」。そう、笑顔でのごあいさつ。

気持ちがいいですね。臨床心理療法研究所 所長の池田誠二郎メダカから教えていただいたから毎日やっている。会う人会う人に声をかけたくなって、びっくりしてきよんとしている人も、あわてて返す人も。面白いねえ。最近では講演を頼まれたりすると「ハイ、少し口を横に広げて」「い・き・し・ち・」に「い・き・し・ち・」に「ドレミファソ」なんてやっている。

この3月末で公民館長は辞したが、4月からは磐田駅前の磐田市観光案内所でも「い・き・し・ち・」に「ドレミファソ」とやっている(笑)。

4月29日に72歳になったこともあって、体力をつけようと、妻に連れられて浜松市浜北区にある県立浜北森林公園で休日の時は一時間ほど歩いている。木々の中は気持ちがいい。心も身体も生き生き。まさに森林浴。ここでも誰彼なく「おはようございます」「こんにちわ」。なにもに、不思議。先方から声をかけてくる人は少ない。こちらから声をかければ返すが、顔を見て返す人はもつと少ない。何回会っても知らない人も。あいさつすれば気持ちがよくなるのになア...

先頃のこと、役場で会議があり、終わって車へ。あ、忘れもの。事務室へ戻って「めんなさい、忘れ物がありました。『お邪魔しました。ありがとうございます。また』。事務室のみなさん顔をあげて「コリ!」。いやア習慣って恐ろしい。でも気持ちがいいね。「幸雄さん 素敵!!」と言われると一番いい顔になるね。

神原幸雄メダカ

トピックス

■めだかの学校の学舎、来年の3月を以って閉鎖となります

平成15年3月から使用させていただいた、「みどりの郷キャンプ場」ですが、管理者の東久留女木自治会の3月総会で「来年の3月を以って閉鎖することに決定した」との連絡を受けました。建物もだいぶ傷み、また高齢化が進み「夜の運転が怖い」という人も多く、来年の3月は20周年の区切りでもあることから受け入れることにします。この間、舎監の牧野久子メダカと管理責任者の牧野紀之さんには並々ならぬお世話になりました。お返しする来年の3月には地域の皆さんをお招きしての謝恩会を開きましょう。以降のことについてはあらためて検討していきます。ご承知ください。

事務局 榊原幸雄



■事務局だより

夏も近づく八十八夜 とんとん 野にも山にも若葉が繁る。茶娘さんに頂いた一杯のお茶。口の中にふわーんと広がった新茶の香りと、渋さと甘さ。まさに珠玉のひとつ。茶農家のめだか生はこのうえない大忙し。そんな中、新東名を走る車の音とワイッショイ、ワッショイの威勢のいい掛け声も風にとって聞こえてくる。

さて第75回めだかの学校は、24年3月2日。校長鈴木一記、教頭木村智子、用務員富田健。いつもハブニングはあるもの。用務員の富田健は出張で欠席。先生の田村進治は自治会で抜け出せず。そこはめだか得意の臨機応変。用務員野嶋一男。先生は木村智子教頭が代役。授業は一時間目生物「いきいき お花のお仲間さん」。伊藤宣勝先生。名古屋人だが、浜名湖で開催された国際花博でボランティアでお手伝いしたのが縁で、今では静岡県のお花のボランティア会の会長だ。そんな話を。二時間目家庭科「おてつないで てくてくと？」。山本洋見先生。ひきこもりの人の理解と支援の「30てくてくの会」を主宰。引きこもりの原因は多種多様。無理強いせず。ゆつくりと。まさにてくてくてくてくて。三時間目社会「向こう三軒またなか緑化」。木村智子先生。小学生の頃から自営の花屋さんのお手伝い。シンガポールでマンゴロープに魅せられて、今はまちなか緑化で潤いのある生活を。三者三様の実のある授業でした。鈴木校長の校長訓話。農協の職員で引佐町の「久留女木の榊田」に出会って、撮りつづけたその結果の写真集が23年度の自主出版大賞に。まじめな努力は実るもの。と。事務局からは、いつも学舎の清掃をしてもらっているめだか生に感謝を！と。お待ち兼ねの給食の時間。3月はひなご膳。美味しかったけど、何食べたっ

け？。甘酒はおかわりしたけど。寝もたけなわなのに、私語飲食全て禁止の鐘が！次回三役の発表。校長鈴木偉代。教頭大久保陽。用務員山田修平。分かりますか？それ相応にふさわしい人が三役になってるんですよ。自主推せんのか給食当番、定着のキライあり、年一回は自主性を発揮して欲しいですね。最後は大きな輪をつくり、「今日の日はさようなら」を歌いつつ、握手してお別れを。最近夜の山道の運転は怖い！という生徒が多くなりました。

第76回めだかの学校の職員会議を、4月18日（水）、警田市の元気村「味里」で校長鈴木偉代、教頭大久保陽、用務員山田修平の三役揃い踏みで開く。今回は19期最後の授業、「地域づくり 仲間づくり 絆づくり」が通年テーマであることと、新東名が4月14日に開通したことでもあるので、新東名も絡めて、「新東名ピカピカ光ってる一年生」で今回のテーマが決まる。うーん、ちょっとアノアノと。『新東名出会いと絆と旅のせて』に変える。ごめん。授業は一時間目、理科「蜂蜜の絆の社会」。寺田幸宏先生。二時間目、家庭科「相づきの縁側カフェ」。山田ひろ子先生。三時間目、社会科「見知らぬ人との出会いの旅」。山下安範先生に決まる。寺田先生、元の勤務先の浜松の静大付属中学校で「蜂蜜の整体」の授業と新聞に。山田先生、佐久間町相月の山あいでおもてなしの縁側カフェをしている姿が目につく。山下先生、数10カ国を旅した「宝箱」の持ち主。三者三様。人との出会いはまさに宝。乞ひご期待を！。その他、来年の3月末をもって現学舎の閉鎖を東久留女木の自治会が決定したこと。来年2月9、10の2日間、引佐町方広寺で開催する20周年についても話し合いました。

■あの一、ごめん、またもとへ……

前回はだいぶ早く発送してびっくりした人が多かったようです。早すぎて私のところへ来ない、と感嘆した人も（笑）。今回は元へ戻ってしまったのでご安心を！（笑）。本心は「ごめん。伊藤英雄メダカ、榊原淑友メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木武史メダカ、最後の締めの間瀬亮太メダカ、よろしくね。ありがとう！」

■第20期の受け付けを始めます。

第19期は6月1日の第76回の授業で終わります。手続きのなされていない生徒は自主退学となっています。ご了承ください。第20期は24年9月1日から25年8月31日までです。第20期の受け付けを、6月1日の第76回の開校日より始めます。継続希望者は、同封の申込書に千円を添えて提出してください。出席できない生徒は、8月31日までに郵送か、事務局までご持参ください。また入校を希望される方がいましたら、事務局までご連絡ください。申込書と資料をお送りします。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行日は平成24年8月1日、原稿の締切りは7月20日です。あなたの活動予定やイベント、活動実践など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、enabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp 間瀬亮太090・5009・0986です。（メールの方は割付の関係もあるので「報告」）

■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県警田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL05
39・62・6691（FAX同し）
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。
携帯080・1612・9130

